

信州大学

信州大学農学部附属演習林における 2023 年のトピック

信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター

教育関係共同利用拠点

「信州を舞台とした自然の成り立ちから山の生業までを学ぶ教育関係共同利用拠点」の更新申請を行い、認定された。認定期間は令和 6 年 4 月 1 日～令和 11 年 3 月 31 日である。

公開森林実習

令和 5 年度は全ての公開森林実習を対面で実施した。協定校からは京都大学、静岡大学、筑波大学から複数の受講生を得た。また、協定外校からは静岡理工科大学、東京農工大学、上越教育大学、岐阜大学、愛媛大学等から受講生を得た。実習では受講生の体調と野外での安全管理に気を配り、山岳環境保全学演習では西駒ステーションの登山時に登山用ヘルメットを着用した。

手良沢山ステーション

手良沢山演習林管理棟の改修を 9 月より行っている。管理棟の一部は宿泊施設に改修し、外部利用のさらなる推進を図る。令和 5 年度はカラマツを中心に約 900m³の素材生産を行い、12、50 万円程度の収入を得た(11 月末現在)。カラマツは 63～64 年生の人工林 6ha を対象にし、あわせて森林作業道路の開設も行った。これらの作業は業者の請負で行った。

西駒ステーション

西駒ステーションでは度重なる豪雨によって登山道の荒廃が進んでいる。また、年々旺盛となるササの繁茂によって登山道が埋もれつつある。登山道の維持・管理は毎年行っているが、荒廃した登山道の整備と被害状況のリアルタイムな把握が追い付かない状況にある。このような背景のもと、総務省の地域デジタル基盤活用推進事業の実証事業として、西駒演習林において信州大学と伊那市、KDDI、川崎重工、NEC ネットエスアイ他によって「次世代長距離通信技術を使った山岳エリアにおける課題解決サービス創出」が始められた。この事業の成果によって、山岳エリアのドローン物流サービスの実現が加速化することや、登山口周辺の安全管理および環境負荷が軽減されることが期待されている。



改修中の手良沢山ステーション管理棟の玄関（左）と内装（右）